

〔草木育種上〕塘窖ぬりだれの事井圖

按に、本邦の北國寒地などへ、天竺安南等の暖國の草木を植には、冬の手當專要なり、冬は皆唐むろに入置べし。其唐むろの建様は、北塞て南あきたる地は猶よし、南に陰なく、朝日より夕日までよくあたる所へ建べし、形は圖の如藏を建と同じ、土は厚きほどよし、南の方皆障子なり、九月頃にも寒風來ば、扶桑花、山丹花、使君子の類は、早く塘の内へ入、障子をかけ置立冬の頃、十月中旬より、嶺南琉球等の暖國より來る草木は、皆入べし、其内日陰を好物は、奥へ入前には龍舌草、霸王樹の類を置、冬も塘の内は土乾ゆへ、水を折々かくべし、天晴て暖き日には、障子をはづし、日をあてよし、然れども南風吹時は、障子を取べからず、寒中の南風は甚だ惡し、寒中又曇りたる日などは、障子を取べからず、夕七ツ時頃より、酒むしろを三重四重も覆べし、若晝中にても俄にくもれば、直にむしろをかけべし、八ツ時過には、障子を明る事惡し、又塘の内へ鼠入て草木を喰事あり、其時は針がねへ小鉢を付て置ば、鼠入る事なしと云り、塘の家根は茅にても杉皮にても葺べし、春の彼岸頃より、丈夫なるものを先へ出し、追々出すべし、唐物類は清明の頃には皆出してよし、

方燈むろの圖○圖

其造様は、南向に茅にても藁にても雨覆を拵へ、ひさしの下は、地まで葺下すなり、其形高く、唐むろの雨覆の如にして、其内、圖のごとく、後は壁にしたるものあり、又障子にてもよし、四方皆障子を合せ、植木を入れて、合せめへ目ばかりをする也、此むろへ入るものは、梅、桃、櫻、海紅、紫藤の類、其外諸の草木、早く花を開せんと思ふには、是へ入べし、内の様子を見るために、小く口をあけ置べし、外よりむろの下へがけて土を掘て、火鉢へ炭火をよく埋、消ぬ様にして入べし、尤寒日は晝も火を絶べからず、むろの内火のある所の上は、竹すのこを渡して、上へ濕むしろを敷べし、此むろへ入て大抵三十日程にて、盡花開ものなり、然ども櫻は白咲、紅梅は色薄し、是を暖日に出して日にあ